

**新型コロナウイルスの感染拡大への  
対応などに関する茨城県内の  
市民活動団体の意見**

**2020年3月6日**

**(2020年3月12日改定)**

**認定NPO法人 茨城NPOセンター・コモンズ**

## はじめに

新型コロナウイルスの感染拡大や、それに対する年度末を迎えた中での行事の中止、また特に 2 月 28 日（金）の全国の公立の全小中学校、高等学校、特別支援学校に対する政府からの休校要請を受けて、大変な不安を抱えていることと思います。

ウイルスの感染拡大やそれが及ぼす社会的影響は、一つの災害だと思えます。このようなときこそ、市民が主体となった組織である NPO 法人及び市民活動団体は、お互いに不安を共有し、共感し、それぞれの取り組みから学び合い、連帯して助け合うことが求められると考えます。

この危機の経験が、組織として準備してきた事業継続計画（BCP）の実践や、今後発生するその他の災害対応力の強化にもつながることと思います。

そこで、茨城 NPO センター・コモンズとしては、新型コ

ロウイルスに対する NPO 法人及び市民活動団体としての対応方法などの情報発信を適時行うことから、まず取り組みます。

また、県内の市民活動団体のご意見をお伺いする機会を設けました。不安やお悩み、想いを共有し、他者、他団体との対話のきっかけづくりにつながればと考えております。

このような非常事態だからこそ、一緒につながって乗り越えていきましょう。

認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・コモンズ  
代表理事 横田 能洋

## 活動概要

目的	茨城県内の NPO 法人及び市民活動団体、またそれらが支えている課題を抱えた当事者が、どのようなことに困り、不安を抱えているのか、どのような取り組みを行っているのか、地域社会に求めることは何かなどを可視化し、発信することを通じて、お互いに不安を共有し、工夫を分かち合い、取るべき対応が取れるようにする対話の機会をつくること。
対象	茨城県内の NPO 法人や市民活動団体（法人格の有無や種類は不問） ※ 活動分野は問いませんが、茨城県内の課題当事者を支えるセーフティネットづくりに取り組む活動を行っている団体を主に想定。
方法	調査票による書面調査 ※ 書面の他、以下及び QR コードの特設ページ（スマホ回答可）からインターネットを通じて回答を集めました。 < <a href="http://bit.ly/corona-npo">http://bit.ly/corona-npo</a> >
実施期間	2020 年 2 月 28 日～3 月 5 日



## 目次

はじめに.....	1
活動概要.....	1
団体にとって.....	3
①-a. 活動にどのような影響がありましたか？困っていることは何ですか？ .....	3
①-b. これまでどのような対応、工夫をされてきましたか？ .....	3
①-c. （利用者の活動利用や役職員の出勤がある場合）どのようにそのルールを変更されましたか。.....	4
①-d. 今後どのような影響があると思われますか？ .....	5
①-e. どのようなサポートが必要ですか？ .....	5
①-f. 今後取り組もうと考えていること、他団体にも参考となる工夫などがあれば教えてください。.....	6
団体の活動利用者にとって .....	6
②-a. これまでにどのような影響がありましたか？困っていることは何ですか？ .....	6
②-b. 今後どのような影響があると思われますか？ .....	7
③ 今後地域で必要なことは何だと思えますか？ .....	8
④ 行政など他の組織に希望することは何ですか？ .....	8
⑤ 全国一律で公立校の休校が要請されるなど、多様性や当事者性、つながりを大事にしてきた 市民社会にとって辛い時期に直面しているかと思えます。利用者や役職員がウイルス感染しないよう安全性に十分配慮しつつも、つながりを維持するために行っている工夫、あったら良いと思うこと、また何があるとそれが実現できるかなど、想うことをご自由にお書きください。.....	9
⑥ 地域社会へのメッセージをお書きください。.....	9
⑦ その他ご自由にお書きください。.....	10

## 団体にとって

### ①-a. 活動にどのような影響がありましたか？困っていることは何ですか？

- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ イベント等が全て中止になった。(県西の子ども食堂)</li> <li>・ 前日に取りやめたので、材料費が無駄になった。(鹿行の子ども食堂)</li> <li>・ 春休みに計画していた野外活動を中止。また、長期休み対応による人員配置の変更。(県北の子ども食堂、障がい児デイサービスなど)</li> <li>・ 毎月の高齢者サロンを中止、子供食堂の一部児童のみ参加限定、マスク不足、送迎、家事支援などのスタッフの体調管理徹底。(県北の子ども食堂、高齢者生活支援など)</li> <li>・ 児童の宿泊学習を中止した。会員の宿泊利用の受付を中止し、施設利用を中止した。(県北の子ども支援団体)</li> <li>・ 指定管理を受けている施設(子育て支援施設)で、行政より事業中止の指示があった。参加者に個別連絡。学校休校指示が出た後、施設としては開館の連絡があったが、開館するというのみで、市としてのそのような施設の在り方等についての説明はなく、スタッフが来館者や問い合わせに返答する際の説明に困る。きちんとした背景を説明したうえで開館していると説明しないと、一般の方への説明責任を果たしてないと思える。(県北のコミュニティ・カフェ及び子育て支援拠点運営)</li> <li>・ 3月10日現在、マスクや消毒用アルコールの入手が若干手に入りにくくなっているが、特に困っていることは</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>ない。(県北の高齢者支援団体)</li> <li>・ ○年間行事で最大の行事である1週間継続の「桜まつりへの出店」中止</li> <li>○3.11支援行事の中止</li> <li>○日帰りで、ほとんどのバス利用による東京スカイツリー見学の中止</li> <li>○その他(県南の障がい者団体)</li> <li>・ 出会いパーティー開催の中止 2月29日(県南の婚活支援団体)</li> <li>・ 現在の所、特に影響無し(県北のIT推進団体)</li> <li>・ 年度末に行事が集中する中、多くの行事を中止せざるを得なかった。貴重な学びの場、ネットワークの場も含まれるだけに、非常に悔やまれる。(セーフティネット推進団体)</li> <li>・ 委託費、助成金の返還が求められないか、気になっている(突然の対応で、すぐに返還を求められても、資金繰り上厳しい)。(セーフティネット推進団体)</li> <li>・ マスク着用でなければ相談業務ができないと委託元の行政から言われているが、そのマスク調達が困難。一方、当団体が相談対応する相手は生活困窮者など相談の緊急性が高い案件もあり、マスクがないからと相談を無碍に断るのはどうなのかと感じる。(セーフティネット推進団体)</li> </ul> |
|---|---|

### ①-b. これまでどのような対応、工夫をされてきましたか？

- |  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食事の提供ができないので、母子家庭や生活保護家庭にお菓子や米を配布した。(県西の子ども食堂)</li> <li>・ サロンの開催中止(鹿行の子ども食堂)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行事の中止。マスクの着用。スタッフも含めた入室時、退出時、おやつと昼食前、手洗い・消毒の徹底。清掃後、室内の換気及び消毒。コロナウイルスへの当</li> </ul> |
|--|---|

- 事業所での対応についての文書発行。(県北の子ども食堂、障がい児デイサービスなど)
- ・配食スタッフの衛生管理徹底、生活支援スタッフの体調管理、行事の中止や一部開催。(県北の子ども食堂、高齢者生活支援など)
- ・児童の宿泊学習を中止した。役職員及び施設用の除菌剤を設置した。(県北の子ども支援団体)
- ・入口に手書きの注意事項を掲示。(印刷物だと目に止めてもらえない)。アルコール消毒液は以前より設置。館の性格上、毎朝おもちゃを消毒している。また「お子さんが口に入れたおもちゃはかごに入れてください。スタッフが消毒します」という掲示とともにかごを置いておく。(県北のコミュニティ・カフェ及び子育て支援拠点運営)
- ・元来、共助精神(お互い様)をモットーとして、団体を設立してきたので、小さな子どものいる職員の勤務態勢を柔軟にしている。(有給休暇の積極的取得・早期

- 退社など)(県北の高齢者支援団体)
- ・特になし。(県北のIT推進団体)
- ・事務所活動でのマスク着用。事務所に入る際の手洗い励行。体調が悪いボランティアは積極的に休む。(フードバンク活動団体)
- ・多くの行事を中止した。(セーフティネット推進団体)
- ・個別の相談や人と会う場合、役職員への手洗い、アルコールやハンドジェルなどでの消毒、マスク着用、部屋の換気、体調が悪い際の出勤見合わせ、テレワークなど、できる限りの対応を求めている。(セーフティネット推進団体)
- ・子ども食堂などの行事開催の判断などの相談を求められた市民活動団体に対し、どのように対応すべきか助言を行っている。(セーフティネット推進団体)

①-c. (利用者の活動利用や役職員の出勤がある場合)どのようにそのルールを変更されましたか。

- ・体調を確認する。(県西の子ども食堂)
- ・5月まで活動なし。(鹿行の子ども食堂)
- ・37.5℃以上の熱がある児童に対しては利用の中止。利用者全てに健康管理カードを配布し体調把握。(体温、体調、食欲など)(県北の子ども食堂、障がい児デイサービスなど)
- ・体温報告、マスク着用(県北の子ども食堂、高齢者生活支援など)
- ・施設利用を休止した。(県北の子ども支援団体)
- ・スタッフ:体調不安、スタッフの家族が体調悪いときは出勤しない。  
来館者:「体調が悪い方自宅であそびましょう」の張り紙。今後はアルコール除菌スプレーを来館者自身が

- 使えるように配置予定。(3月より)(県北のコミュニティ・カフェ及び子育て支援拠点運営)
- ・改まったのルール(就業規則)の変更などはしていないが、ミーティングなどで口頭にて自己管理と家族管理を周知させた。(県北の高齢者支援団体)
- ・利用者・支援員・ボランティアさんなど少人数のため、個々人へ個別に対応(県南の障がい者団体)
- ・当初は、活動へ参加する前に自宅で検温、体調確認をしてもらった。(県南のスポーツ推進団体)
- ・特になし。(県北のIT推進団体)

### ①-d. 今後どのような影響があると思われますか？

- ・ 小さな子どもがいる家庭と、学校が休校になった家庭の把握が正確に出来ていない。(県西の子ども食堂)
- ・ 本来、こういう時に子ども食堂で食事又はお弁当の配布をすべきだと思う。(鹿行の子ども食堂)
- ・ 子ども食堂を楽しみにしている貧困児童(県北の子ども食堂、障がい児デイサービスなど)
- ・ 行事が延期となり、活動が停滞する。(県北の子ども食堂、高齢者生活支援など)
- ・ 施設利用料が入らなくなった。(県北の子ども支援団体)
- ・ 子育て中の母親がチームで運営シフトを組んでいるため、学校休校により勤務できないスタッフが数名出た。チームで運営しているため、スタッフ間の信頼があり、子どもさんを預けあって勤務できるようシフトを調整中。(県北のコミュニティ・カフェ及び子育て支援拠点運営)
- ・ 小さな子どもがいる職員が出勤できなくなり、シフト編成に困る。(県北の高齢者支援団体)
- ・ 桜まつりへの出店は障害者である利用者と一般市民との最高の交流の場であり、接客を通じての多くのことを学べる機会であったこと、活動資金を得る最大のイベントであった。(県南の障がい者団体)
- ・ 事業収益の減少に伴う活動の縮小(県南の婚活支援団体)
- ・ さらに感染が拡大、もしくは長引いた場合、各種活動に対して自主的に制限せざるを得なくなる。(県北のIT推進団体)
- ・ 3月の行事開催中止はやむを得ないとして、この状況がいつまで続くのか不安。来年度の事業を計画する時期だが、各事業の実施時期などをどのようにするのか。後ろ倒しにするにしても、限界がある。早期の事態収束を望むしかないのだが。(セーフティネット推進団体)
- ・ 個人的には、妻が来月臨月となる。妊婦やすぐに生まれる子ども、そしてまだ小さい子どもを抱え、家族への感染リスクは極力減らしたいものの、人と会うのが仕事となっている私は活動を控えるにも限界がある。極力自宅などで作業するようにしたいが。(セーフティネット推進団体)

### ①-e. どのようなサポートが必要ですか？

- ・ 学童保育への支援や各家庭へのお弁当を配布したい。(県西の子ども食堂)
- ・ 私たちの団体は固定した場所がないので、いざと言う時活動できない。(公民館も休館になるため)(鹿行の子ども食堂)
- ・ 他の事業所はコロナウイルスに対してどのような対応を取っているのか。また、放課後等デイサービスは感染症対策としてどのように対応すればよいのかという指針があると良い。(県北の子ども食堂、障がい児デイサービスなど)
- ・ ギリギリの運営なので、収入の減少が長引くと活動の継続に支障を来す。活動継続のための支援(県北の子ども食堂、高齢者生活支援など)
- ・ 今のところはなし。(県北のコミュニティ・カフェ及び子育て支援拠点運営)
- ・ 県内および当地域にどの程度感染例が現れるかによるが、基本的には「インフルエンザ流行時」と同様の対応で様子を見ます。(県北の高齢者支援団体)
- ・ 特になし。自ら考え実行します。(県南の障がい者団体)
- ・ NPO法人への助成体制などはないのか？(県南のスポーツ推進団体)
- ・ 1日も早い事態の収束を願います。(県南の婚活支援団体)

- ・ 特になし。(県北の IT 推進団体)
- ・ 他団体の対応事例や悩みを共有したい。(セーフティ

ネット推進団体)

①-f. 今後取り組もうと考えていること、他団体にも参考となる工夫などがあれば教えてください。

- ・ 食材の無料提供や家庭での食事の補助など(県西の子ども食堂)
- ・ 特にありません。情報が欲しいです。(鹿行の子ども食堂)
- ・ 配食を継続しているので、高齢者の安否確認を確実に行う。高齢、一人暮らしの送迎サービス利用者の健康確認をさらに徹底する。(県北の子ども食堂、高齢者生活支援など)
- ・ 施設運営を最少人数ではなくチームでかつ子連れ勤務 OK で行っている。今回はその特徴の良い点と弱点が両方浮き出た。(休校による勤務できないスタッフが多い)(大勢でシフトを回しているの、支えあえる)(県北のコミュニティ・カフェ及び子育て支援拠点運営)
- ・ 高齢者対応の団体ですので、手洗いや消毒などには十二分に徹底励行しています。(県北の高齢者支援

- 団体)
- ・ 特になし。(県南の障がい者団体)
- ・ 特になし、状況を注視したい。(県北の IT 推進団体)
- ・ 各地で軒並みイベント自粛の動きに合わせて、イベントに使われる予定だった購入済みの食品やお菓子などが無駄になってしまう前に、食品ロス対策として主催者に寄付をしていただけるよう SNS などを通じて知らせたい。また、学校給食納入業者に対しても、予定していた給食がなくなったため、既に購入してしまった食品の行き先の選択肢の一つとしてフードバンクに寄付も検討していただけるよう食品ロスの観点からお願いしていきたい。(フードバンク活動団体)

## 団体の活動利用者にとって

②-a. これまでにどのような影響がありましたか？困っていることは何ですか？

- ・ 自分がウイルスに感染したらどうするか？感染者の家庭にどのくらいの支援ができるのか？(県西の子ども食堂)
- ・ 2月10日に子ども食堂開催しましたが、特にありませんでした。(鹿行の子ども食堂)
- ・ 給食により栄養を補っている児童や、学校でしか〇〇を食べない児童、貧困児童の食事面が心配である。(県北の子ども食堂、障がい児デイサービスなど)
- ・ マスクが足りない。(県北の子ども食堂、高齢者生活

- 支援など)
- ・ 現在は、設問のような事例は存在していません。(県北の高齢者支援団体)
- ・ 各行事の中止にがっかりしていたが、理解してくれた。(県南の障がい者団体)
- ・ 国を挙げて対策を呼びかけている以上、それに協力しないといけないと考える。(県南のスポーツ推進団体)
- ・ 出会いパーティー参加ができないこと。結婚相談員が事務所に来所しにくくなったこと。(県南の婚活支援

団体)

・特になし。(県北の IT 推進団体)

## ②-b. 今後どのような影響があると思われますか？

- ・家の外に出られずにいる場合、健康上や精神面で影響が出てこないか危惧しています。(県西の子ども食堂)
- ・できれば居場所を作ってあげたい(鹿行の子ども食堂)
- ・子ども食堂を実施できない。学校に行かないことによる生活習慣の乱れ。(県北の子ども食堂、障がい児デイサービスなど)
- ・独居老人にとっては外部との連絡がさらに取れなくなる。買い物支援、移送サービス、家事、育児支援が必要になる。ドアツードア、マンツーマンで支援をする団体情報の広報不足。(県北の子ども食堂、高齢者生活支援など)
- ・家の中だけで1か月過ごすこと、どこにも出かけられない(気分転換ができない)ことによる養育者のストレス。虐待傾向など派生しないことを願います。(県北のコミュニティ・カフェ及び子育て支援拠点運営)
- ・毎日のサポート(食事・入浴・清潔)を必要としている高齢者達なので、団体の都合で休止するわけにはいきません。(県北の高齢者支援団体)
- ・活動への各種規制や、公共施設の利用制限など長期間継続の場合、ストレスが溜まらないか。(県南の障がい者団体)
- ・さらに感染が拡大、もしくは長引いた場合、各種活動に何らかの制限が入る可能性がある。(県北の IT 推進団体)
- ・学校が長期一斉休校になったことで、特にシングルマザーの負担が叫ばれている。普段給食に頼っていたが、給食がなくなり家での食事の心配が大きいと思う。母子

家庭支援団体や困窮世帯からの食品提供依頼があるのではないかと想像している。(フードバンク活動団体)

- ・我々が日々接しているのは、ひきこもりがちな市民、生活困窮者、被災された住民、在住外国人など、課題を抱えた方々です。地域の中で、また場合によっては一人暮らしだったり、家庭の中ですら居場所がない人もいる中で、様々な当事者の居場所づくりに取り組んでいる我々が、一斉に居場所の中止を行ったらどうなるか。

もちろん衛生管理は主催側として最大限配慮しなければならないと心得ているが、居場所がなくなることで心身のリスク、副作用も十分に考えなければならないのではないかと考えている。全国一斉休校のような乱暴な措置を目の当たりにした後だと、余計にそのように感じる。

そのためには、やはり課題を抱えた当事者と接している NPO として、当事者の声、お困りごとをもっと発信しなければいけないし、まだまだ我々 NPO は力不足だ、やるべきことはあると感じる。マイノリティという表現は適切ではないかもしれないが、そういった市民の声を政策決定者の意識下に入れなければ、結局全国一斉休校のような決定が上から行われ、その日々のしわ寄せは立場の弱い人に押し付けられてしまうことになる。物事を勝手に決めるな、我々の声にも耳を傾けてくれ、と伝えたい。(セーフティネット推進団体)

### ③ 今後地域で必要なことは何だと思いますか？

- ・ 地域や行政が一体となって取り組む必要があると思う。  
（県西の子ども食堂）
- ・ 市役所に頼らない、居場所づくり（安定した開催場所）（鹿行の子ども食堂）
- ・ マンツーマンのちょこっと支援（県北の子ども食堂、高齢者生活支援など）
- ・ 冷静な対応、うわさなどに惑わされないように。（県北のコミュニティ・カフェ及び子育て支援拠点運営）
- ・ 地域内の医療・介護職間の連携（県北の高齢者支援団体）
- ・ 現在実施されている各種対策・内容が本当にこの地域に必要な内容なのかの検証とその結果のタイミング良い公表（県南の障がい者団体）
- ・ 今は浮かばない。（県南のスポーツ推進団体）
- ・ 地域ぐるみで難局を乗り切りたい。（県南の婚活支援団体）
- ・ 他の人との接触を避けるなど、ある程度の我慢の行動が必要。（県北のIT推進団体）
- ・ 冷静に怖がるのが大事だと思う。インフルエンザでの死亡者数の方が新型コロナウイルスよりも高いはずだが、では毎年この時期全国一斉休校がなされているだろうか。物事のリスク、それに向けた対応とその影響や副作用などをしっかり吟味し、様々な関係者と議論した上で対応したい。（セーフティネット推進団体）
- ・ SNSなどを通じたデマ、インフォデミックも一部起きているが、情報源やその信ぴょう性、妥当性をしっかり判断するなど、当たり前の冷静な対応が求められる。（セーフティネット推進団体）

### ④ 行政など他の組織に希望することは何ですか？

- ・ 現在のこどもを取り巻く環境の把握と対処法を、すぐに実行してほしい。（県西の子ども食堂）
- ・ 緊急事態応急対策拠点施設（鹿行の子ども食堂）
- ・ マスクやアルコール消毒などを優先的に団体活動を行っている施設に配布してくれるいい。（県北の子ども食堂、障がい児デイサービスなど）
- ・ 地域でのワンコインサービス組織化に協力する団体への、広報、財政支援。（県北の子ども食堂、高齢者生活支援など）
- ・ 休校の例のように、こうしますという結論だけを発表するのではなく、市民にきちんと状況と対応策をとった理由なども含めて説明してほしい。  
横並び、前例主義を見直し、何ができて何が必要とされているのか、当事者の意見を聞いてもらいたい。  
（県北のコミュニティ・カフェ及び子育て支援拠点運営）
- ・ 広報と民生委員などによる聞き取り調査の徹底（県北の高齢者支援団体）
- ・ 国、周辺自治体の動向を把握し、利根町の的確な現状把握による対応策のタイミング良い周知と実行。（県南の障がい者団体）
- ・ 感染者が発生した場合、感染者の訪問履歴などの迅速な情報公開。（県北のIT推進団体）
- ・ 素早い意思決定が必要なのはわかるが、普段から（ここが大事）行政や議員は、地域の多様な団体、課題を抱えた当事者との接点を持ってほしいし、積極的に関わってもらいたいし、その上で重要な判断を行ってほしい。我々もそれらの声を届けられるよう、今後も頑張りますので。（セーフティネット推進団体）

⑤ 全国一律で公立校の休校が要請されるなど、多様性や当事者性、つながりを大事にしてきた市民社会にとって辛い時期に直面しているかと思います。利用者や役職員がウイルス感染しないよう安全性に十分配慮しつつも、つながりを維持するために行っている工夫、あったら良いと思うこと、また何があるとそれが実現できるかなど、想うことをご自由にお書きください。

- ・メールなどで現状を確認する。(県西の子ども食堂)
- ・手洗い、うがい、消毒を徹底した。子どもたちにもキチンと説明して理解してもらった。(鹿行の子ども食堂)
- ・給食の余っている食材を活用できないか。給食で栄養バランスを補っている児童はたくさんいる。当事業では、家庭外では野菜を食べる、貧困児童、親が栄養を考えた食事をつくれぬなどの児童もいて、食事面の心配が大きい。例として、給食センターの食材を施設に提供していただく、給食センターでつくったものを施設に提供していただくなど。(県北の子ども食堂、障がい児デイサービスなど)
- ・老人会、婦人会、子供会、町内会活動が崩壊して、バラバラになった住民は、自分たちの生活に欠かせない別のつながりを望んでいる。困った時、見捨てない団体はどこか？NPO、企業、行政での協力関係が求められている。しかし、2025年問題に早くから取り組んで来た他県、他地域とはますます差が開いてしまった。地域

- 住民の不安や困難を他人事とし、ますます生活困窮者(経済的理由とは限らない)が増えようとしている実態から目をそらし続けてきたつげは、取り返しがつかないところまで来ているように思う。(県北の子ども食堂、高齢者生活支援など)
- ・小さくゆるやかなコミュニティーを継続してつづいていくこと。(自身の周りに)(県北のコミュニティ・カフェ及び子育て支援拠点運営)
- ・職員間は常に「ライン」アプリにて連絡を取っているが、ご家族にまでは強制できないので、連絡帳などに感染に留意する旨、お願いしている。(県北の高齢者支援団体)
- ・この機会にITの活用の普及推進。(県北のIT推進団体)

⑥ 地域社会へのメッセージをお書きください。

- ・地域全体が助け合い見守り合うことが大切と考える。(県西の子ども食堂)
- ・もっと、小さい地域でみんなが地域の為に、自分のために開けた社会に、、昔みたいに、自然と集まれる場所づくり。(鹿行の子ども食堂)
- ・自ら手を伸ばそう。つかもう。動こう。(県北の子ども食堂、高齢者生活支援など)
- ・経済か健康かの選択肢だけではなく、お節介にならない程度の「一声運動」を続けていく。(県北の高齢者支援団体)
- ・一日も早い平穏な毎日を取り戻すために、やるべきこと

- はやる。耐えるべきことは耐える。我慢すべきことは我慢するなど力を合わせ、知恵を出し合って、この苦境を乗り越えよう。(県南の障がい者団体)
- ・日はまた昇る。(県北のIT推進団体)
- ・日本は元々同調圧力が強いと言われる(それがいじめの原因ともなる)。他者、仲間と同じ行動をすることが、社会的に強要され、多様性や個性が重視されにくい風潮があるが、このような非常時だとそれがさらに強まっていると感じる。行事などの中止の判断もそうではないかと。横並び意識が強く働き、自分のところも他と同じように行動しなければ何を言われるかわからない、という

考えが強まり、その行事中止という行動の科学的な感染予防効果よりも、行事を中止するという行動、手段自体が目的化しているようにも見受けられる。もちろん、行事を中止した方が、人が集まらない方が感染リスクは下がるはずだが、本当にそれで良いのか、その副作用は何か、しっかりと天秤にかけた上での判断なのか。あらゆる物事を中止してしまっただけは、世の中全てが止ま

ってしまう。こんなときこそ、思考停止に陥らず、市民として一人一人しっかりと判断、行動しませんか。NPO、市民社会は、その活動を通じて一人一人の市民が育っていくという効果があるといえます。今こそ、市民力が試されている、そんなことを考えます。（セーフティネット推進団体）

## ⑦ その他ご自由にお書きください。

- ・ 今回の休校は、あまりにも突然すぎて理解に苦しみます。給食のことや、日中の子どもたちを考えたら、空き教室を使ってクラスを分散して活動した方が良かったのではないかと思います。（鹿行の子ども食堂）
- ・ 今回のコロナウイルス対応は、過去の経験値では対処できない災害なので、官民挙げて我慢すべきところは我慢をして、弱者が犠牲にならないよう地域社会全体で、乗り越えなければならぬ…。私たち日本人は、そういった意味で過去の幾多の災害を乗り越えてきたという自負心がある国民。今、出来ることをしっかりこなし、対処して行きたいと考える。（県北の高齢者支援団体）
- ・ 所属する団体とは別に、個人的な意見です。今回の一斉休校については子育て世代の当事者として少なからず当惑しています。特に小さい子供を持つ親には大変な事態だと思います。当然、子どもにとっても大変な事態です。  
例えば、親に虐待を受けている子どもにとっては、学校は家庭から逃れる「居場所」となっていたはず。それがなくなり一日中家に居なければならなくなり、本人にとってどんなに途方にくれることか。家に閉じこもっていれば安全というのは一般的な認識だが、家族の在り方というものが崩れつつある昨今、逆に家では居心地が悪いと思っている子もいるはずで、そのような子にとっては行き場がなくなり、長期に渡り正に地獄となり得る。  
通常の長期休み（夏休みなど）と違い、あらゆるイベント、習い事、塾などが中止され、公共施設の利用停止、さらに子供が在宅中に読書をしたいと思っても、最後の砦ともいえる図書館までも閉鎖され本も読むこと

も借りることもできない。この現状は異常とも思える。

また、心身障がいを持っているお子さんは、日常の急な変化に対し、即座に現状を把握することが困難な子どもも多く戸惑いもあり、またそのような子を持つ親にとっては精神的に負担が大きいと察する。

共働き家庭やシングルペアレントに対する国や自治体からの経済的なバックアップは当然必要だが、上記のような居場所を失ってしまう子供や、不安を持つ障がい者とその親のような「社会的弱者」の受け皿となる機関も必要。県内でも、希望者が登校できるように学校を自主的に開放している自治体もあるが、活動の自由度が高い民間団体が積極的に受け皿となる場所、機会をつくるのが大事かと思う。さらに県内に住む外国人への説明が丁寧になされているのかなどなど、心配なことは多い。難しい問題かもしれないが、「災害」の際はいつも弱者が取り残される、という教訓を踏まえて、だれも取り残されない社会を目指していく必要があると思います。（フードバンク活動団体）

- ・ 一部で、特に紙製品、衛生・生理用品、マスクなどの買い占めなどが起きているようです。妊婦などそれらが本当に必要な方もいます。自己防衛と全員が買い占めに走れば、地域社会全体を維持できなくなります。個人としての最適解は、地域社会全体としての最適解にならないこともあります。我々一人一人が市民として、冷静に判断、対応しましょう。（セーフティネット推進団体）

**認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・コモンズ**

〒310-0031

茨城県水戸市大工町 1-2-3 トモスみとビル 4階

みとしんビジネスセンター C-1

電話：029-300-4321

FAX：029-300-4320

eメール：[info@npocommons.org](mailto:info@npocommons.org)

ウェブサイト：[www.npocommons.org](http://www.npocommons.org)